

三浦建設工業 設備増強完了

大型物件向け加工の内製強化

高規格材適合 工場認定取得 差別化で受注拡大

青森県のHグレード最新鋭のH形鋼用ショットブラスタ、三浦建設工業（本社・青森県八戸市、社長・三浦隆宏氏）は経済産業省の事業再構築補助金（第5回）の採択を受けて進めてきた一連の設備投資を完了した。

最新鋭のH形鋼用ショットブラスタ機をはじめ、ドリルマシン、H形鋼ダブル開先機などを先月までに新たに導入

した。昨年度には高規格材（550N）適合工場に認定されており、

今後は高層大型物件向けに一層の内製化による納期対応力の向上や品質確保を図り、他社との差別化で受注拡大に注力する方針だ。

新規導入したショットブラスタ機は寿海工業製の「HB-1300R型」。東日本エリアでは初導入の設備で、1300×500ミリまでのH形鋼のショット

加工が可能となる。昭和精工製のドリルマシン「TCV3515LDJ」は工具自動交換装置（ATC）を装備した高機能一軸ドリルマシンで、ワークサイズは1500×3500ミリ。板厚1000ミリまでの穴あけを全自動で行え、大型物件の免震装置据付用ベースプレートの内製化が可能となる。

シックス製のH形鋼ダブル開先加工機「MHV-1360NC」は幅1300×高さ600ミリ、フランジ

厚60ミリまでの加工が可能。超高層物件で多い両端部に開先加工を施した現場溶接用の梁の製作に対応する。そのほか補助金の活用により「汎用CAD/CAM実寸法師」を導入したほか、アマダマシナリー製の鋼板ショットブラスタ「AM&F5010」を更新した。

三浦建設工業は現在、C、CT、CTF、T1、T2の5種別で高規格材（550N）適合工場の認定を受けている。中田美亀雄副社長は「首都圏再開発など高層大型建築案件

の鉄骨製作を受注する要件として、今後求められる傾向が強くなるだろう」と分析。その上で「実際に認定が必須とならない規模の製作であっても、ゼネコンや設計事務所から見

た当社の技術力や品質管理力に対する信用は高まる。設備や資格技術者数が評価され、他のHグレードとの差別化を通じて受注拡大につながる」と話している。



導入した寿海工業製ショットブラスタ①と高規格材適合認定書

